

中一中野球部の躍進をたたえる

県野球団体協議会団体表彰

県野球団体協議会の優秀団体表彰式は令和3年12月8日、



中村第一中学校で行われ、同中学校野球部を代表して3年生10人が出席しました。

県内10の野球関係団体で組織される同協議会が野球部の全国大会出場を評価し、2021年度の優秀団体として表彰するもの。

式で、松本壹雄同協議会会長から関颯汰前主将に記念の盾が手渡され、関前主将は「全国大会出場が評価されたことは光栄です。高校進学後も野球選手として成長したい」と決意を述べました。

磯部小が団体特別賞を受賞 クルマのリサイクル作品コンクール

第4回クルマのリサイクル作品コンクール表彰式は令和3年12月10日、磯部小学校で行われ、児童6人が出席しました。

同コンクールは、自動車リサイクルをPRするポスターなどを募集するもので、同小

学校は団体特別賞を受賞。

式で、公益財団法人自動車リサイクル促進センターの溝口浩幸さんが代表児童に表彰状を手渡しました。



注意を呼びかけ 防犯パトロール



市西部地区防犯協会冬の防犯パトロール出発式は令和3年12月8日、市民会館で行われ、会員ら25人が出席しました。

式で、阿部勝弘副市長は「引き続き安心して暮らせる街づくりへの協力をお願いします」とあいさつ。

会員らは3班に分かれて田町通りなどを巡回し、防犯啓発グッズを手渡ししながら、「ATMを利用した詐欺が多発しています。少しでも詐欺かなく感じたら、警察署に連絡ください」など、犯罪への注意を呼びかけました。

中学生がドローン操作を体験

公民館わくわく出前授業

中央公民館特別企画講座わくわく出前授業「ドローン教室」は令和3年12月14日、磯部中学校で開かれ、22人の生徒が参加しました。

生徒たちに科学の楽しさを実感してもらうことを目的に、公益社団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構の協力を得て、総合的な学習の時間に実施。

生徒たちは、同機構の職員から福島ロボットテストフィールドなどの説明を受けたあと、体育館でタブレット



を使ったトイドローンの操作を体験しました。

みそ汁の塩分測定と減塩指導

食生活改善推進員

食生活改善推進員によるみそ汁の塩分測定会は令和3年12月8日、磯部公民館で開かれ、地区住民13人が参加しました。

高血圧症の原因となる塩分を意識してもらうことを目的に、保健センターの主催。

当日は、参加者が持参したみそ汁の測定のほか、栄養士らによる減塩の指導が行われ、参加した人たちはみそ汁の減塩方法などを学びました。



おいしいイチゴを届ける

和田観光苺組合の3人は令和3年12月9日、市役所を訪



和田観光苺組合

れ、イチゴ（章姫）を立谷市長に届けました。

訪れたのは、齋川一朗同組合組合長、山中賢一郎和田いちごファーム代表と組合員の阿部軌定さん。

齋川組合長は「今年は全体的に甘味のあるイチゴができています。多くの皆さんに楽しんでいただけるよう、感染症対策をしっかりと行いながら、みんなでもてなしたいです」と述べ、立谷市長は、届いたイチゴを早速ほお張っていました。

リースに願いを込める 相馬愛育園

「ハッピーリースを作ろう」は令和3年12月11日、相馬愛育園で開催され、12組42人の親子らが参加しました。シールなどで飾りを付けたオリジナルのリースや、ペットボトルを組み立ててイルミネーションなどで飾るリトルツリーを制作。

寄付ありがとうございます
相馬仏教会

令和3年12月14日、延原了英相馬仏教会会長らが市役所を訪れ、阿部勝弘副市長に寄付金を手渡しました。

訪れたのは、延原会長、林心澄同会副会長、天野淳英さんの3人。

同寄付は、歳末助け合い募金で集められたものと、市内19カ所の寺で構成されている同仏教会の会費から支出されたものです。

寄付を受け取った阿部副市長は「ありがとうございます。子どもたちの教育などのため大切に使用させていただきます」と述べました。

東北から元気を発信 楽天野球団

ベースの寄贈

株式会社楽天野球団によるベースの寄贈は令和3年12月12日、光陽ソフトボール場で行われました。

寄贈は東北楽天ゴールデンイーグルスの2021がんばろう東北シリーズ企画によるもの。

式で、楽天イーグルスマスコットキャラクターのクラッチーナとスイッチから相馬学童野球クラブの児童7人に同球団のロゴが入ったベースが手渡されました。



親子野球教室



ボールパークピクニック！は令和3年12月12日、楽天こどもドームで開催され、約100人の家族連れが室内アトラクションで元気に体を動かしました。

会場で球団チアリーダーによるパフォーマンズが披露されたほか、隣接する光陽ソフトボール場では、楽天コーチによる親子野球教室を開催。

アカデミーコーチが参加者にボールの捕り方や投げ方、野球の基本的な動作などを指導しました。

新型コロナウイルス ワクチン 追加接種開始

市は1月10日、国の追加接種（3回目接種）の方針に基づき、新型コロナウイルス集団接種をスポーツアリーナそうま第二体育館で開始しました。

市の新型コロナウイルス追加接種は、初回接種（1、2回目接種）と同様、原則集団接種とし、厚生労働省の方針に従った優先順位で各地区ごとに接種日時を指定して実施。

接種会場では、ファイザー社製ワクチンと武田/モデルナ社製ワクチンの取り違いが起らないよう入り口、受け付け、レインを



色分けし、接種を受ける方のマスクにシールを貼るなどの工夫をした上で、検温・医師による予診票の確認・問診により、医師がワクチン接種を行います。

また、副反応などに対し所定の場所での15分の経過観察を行うほか、万が一に備えて救急車が待機します。

接種に先立ち、立谷市長は「初回接種の経験を活かし、おもてなしの心をもって、来ていただいた方が不安に思わないように丁寧な接客を行ってください」とあいさつ。

当日は、令和3年12月に送付した意向調査はがきで接種を希望すると回答した65歳以上の高齢者のうち、ファイザー社製192人、武田/モデルナ社製189人、合計381人が医師によるワクチン接種を受けました。

ホームページ
はこちらから



ズワイガニ初水揚げ 松川浦漁港



相馬の冬の味覚のひとつであるズワイガニが令和3年12月17日、松川浦漁港に初水揚げされました。

前日の夜に出漁した底引き網船9隻は、17日の朝、松川浦漁港にズワイガニを2・4トン水揚げ。

相馬双葉漁業協同組合の放射能測定検査の結果、水揚げされたズワイガニは不検出で、オスは甲羅の大きさ、メスは成長度合いなどを基準に選別され、全国各地へ流通されました。

ズワイガニ漁は週1回程度、3月まで行われる予定です。

県選抜選手として全国大会へ

スポーツ大会出場報告

スポーツ大会出場報告は令和3年12月22日、市役所で行われ、全国大会に出場する田中碧空選手（中一中3年）と姥原里桜選手（磯部中2年）が立谷市長に報告しました。

両選手は県バレーボール協会から選抜選手として選出され、JOCジュニアオリンピックカップ第35回全国道府県対抗中学バレーボール大会に出場。

それぞれ大会への決意を述べ、報告を受けた立谷市長は



両選手を激励し、一人一人に奨励金を手渡しました。

外国の皆さんとクリスマスを祝う

国際交流クリスマス会

国際交流クリスマス会は令和3年12月25日、総合福祉センターで開催され、親子ら約60人が参加しました。

国際交流の会の主催。

参加した子どもたちは、本市のALIT（外国語を母国語とする外国語指導助手）と一緒にイス取りゲーム「music chair」で体を動かしたほか、マラカスを制作して親子でクリスマスを祝いました。



令和4年初競り

相馬総合地方卸売市場



相馬総合地方卸売市場の初競りは1月5日、同市場で行われ、威勢の良い競り声が響きました。

初競り式は水産部と青果部合同で行われ、水産部の加藤邦喜相馬魚類株式会社代表取締役と青果部の菊地洋一株式会社相馬青果代表取締役があいさつ。

立谷市長は「相馬福島道路も立派になり、浜の駅松川浦は大変にぎわっています。これからは浜の駅だけでなく、市全体に人が来るようにしていきたい。ワクワク



チン接種などコロナ対策をしつかりと行い、飲食店をはじめとした消費が改善するように市全体で考えていきますので、今年1年、皆さんも健康に気を付けながら、信念をもってがんばっていただきたい」と祝辞を述べました。

全員の三本締めで今年の取り引きの活性化を願ったあと、競りが開始され、参加した仲卸業者らは、熱心に品定めを行い、新年最初の魚や野菜を競り落としていました。

献血協力300回
日本赤十字社
感謝状受賞報告

日本赤十字社献血者感謝状の受賞報告は1月4日、市役所で行われ、吉田奈々恵さんが立谷市長に受賞を報告しました。

同表彰は、献血300回に到達したことに対し感謝の意を表するもので、吉田さんは毎月献血に協力し、約20年かけて300回に達しました。

吉田さんは「これからも献血に協力していきたいです」と今後の抱負を述べ、立谷市長は「とても立派な功績です。長年にわたる献血への協力に感謝します」と受賞をたたえました。

本格的なシーズンを迎える青ノリ漁

相馬双葉漁業協同組合の青ノリの出荷作業は1月7日、尾浜地区にある同組合松川浦荷揚場で行われ、カゴいっぱい詰められた青ノリが次々に運び込まれました。

当日は、32人の生産者が朝に収穫した合計1、252キログラムの青ノリを出荷。色、つやの良さ、黒ノリの混入具合などによって等級が決められたあと取り引きされ、生ノリとして県内外で販売されます。



防火への誓い新たに消防出初式

市消防出初式は1月9日、総合福祉センターで開かれ、



市消防団員と市女性消防隊員など関係者約150人が参加しました。

式で山田行雄団長は「消防団には地域住民の生命と財産を守る崇高な使命があります。関係機関と連携して活動してください」と訓示。

続いて、立谷市長が「どうやって市民の命を守っていくかを考え、精励していただきたい。一緒にがんばっていきましょう」と訓示し、参加者は消火・防災への誓いを新たにしました。